

土のうによる水害対策

近年、全国各地で台風、大雨による豪雨災害が発生しています。台風や大雨のおそれがあるとき、事前に対策をしておくことで浸水被害を最小限に抑えることができます。今回は、一般的な水害対策として知られている「土のう」について説明します。

（土のう設置例）



設置幅	270cm（扉の幅180cm）
土のうの数	40袋（1段目 13個、2段目 13個、3段目 14個）
土のうの総重量	600～800kg（1袋 15～20kg）
設置高さ	40cm（1段 約10～15cm）

※土のうの数・設置高さは、土のうの積み方・砂の量によって変わります。

これだけの土のうを作成、搬送、積む作業はとても大変！！

(一般的な家の玄関扉の設置例)



親子扉 幅130cm
土のう設置幅180cm
土のうの数
1段積み 9袋
2段積み 18袋
3段積み 27袋
※高さ1段約10~15cm
※数はあくまでも目安です。



引き違い戸 幅180cm
土のう設置幅220cm
土のうの数
1段目積み 11袋
2段目積み 22袋
3段目積み 33袋
※高さ1段約10~15cm
※数はあくまでも目安です。

1. 作成及び搬送について

- ・土のうの作成には大量の砂が必要。
- ・土のうの重さは1袋約15~20kg。
- ・車両での搬送が必要。

※高松市では、台風等が近づいた時に、状況に応じて、土のう作成場所を開設しています。必要な方は、その場で作成の上、各自で持ち帰っていただきます。

2. 設置について

- ・十分な止水効果を得るためには、多くの土のうが必要。
- ・土のうの積み上げ作業は、大変な労力と時間が必要。

3. 保管について

- ・保管スペースが必要。
- ・長期間の保管で袋材の劣化。

4. まとめ

土のうによる水害対策は、土のうの作成、搬送、設置に大変な労力と時間が必要です。また、備蓄するための保管場所も必要です。土のうを設置することで、十分な止水効果がありますが、高齢者や体の不自由な方にとって作業は非常に困難と考えられます。

最近では、コンパクトに収納でき、緊急時に素早く、簡単に設置できる水害対策商品も販売されています。

また、高松市南消防署では、土のうの代わりになるものとして、

「自宅にあるものでできる水害対策」

を紹介しています。

是非とも参考にしてみてください。



高松地区防火安全協会マスコットキャラクター

けすにゃん（消防局公認）